

NPO 法人

全日本語りネットワーク

2011. 8. 5 発行

〒376-0045 群馬県桐生市末広町 11-1 JR 駅構内
桐生市民活動推進センター

(Fax) 0277-47-4066 (振替) 00130-2-114808

(E-mail) welcome@japankatarinet.jp

(HP) <http://japankatarinet.jp/>

ニュース

語りの心でつながろう

井上幸弘 (山形県山形市 NPO 法人全日本語りネットワーク理事)

平成 23 年 3 月 11 日午後 2 時 26 分東日本大震災が発生しました。マグニチュード 9.0。高いところで 30 メートルにも及んだ大津波、そして東京電力福島第一原子力発電所の爆発事故。未曾有の天災と人災。放射能汚染による風評被害。地震発生から数カ月がたとうとしているのに、まだライフラインが復活せず、不便な避難所暮らしを強いられている多くの被災者。被災地の現場は「復興」には程遠い現状です。

私は地震が起きた日、職場においてこれまでに経験したことのない揺れを感じました。私自身はその日山形市役所内の対策本部から離れることが出来ず、家族とも連絡が全くとれず、ようやく次の日なんとか全員の無事を確認できました。けれどもその後の日常生活がままならず、特にガソリン、灯油が手にはいらず、不安な毎日となり、自宅のある朝日町との往復もできず、山形市内の実家から通うこととなりました。余震は毎日発生し、食べ物も不足し、いろんなことを考えると夜もろくに眠れない日々が続きました。

避難所となった山形市の総合スポーツセンターには主に原発がらみで福島からの避難者が最高で千人を超えるほどになり、日常業務に加えての支援で、職員に多くの負担がかかりました。山形市民の生活が少し落ち着いてくると、山形市立図書館ボランティア“小荷駄のみどりから”のメンバーによる避難所の子どもたちへの読み聞かせ等のお楽しみ会も行われました。

これから復興が進んでいくと思われませんが、依然安定化しない原発は最大の不安材料です。決して放射能の被害を侮らず、しかしながらパニックに陥ることなく冷静に対応していくことが大切です。

ネットワークとして「語りの心でつながろう」というチャリティーのお話を 6 月 4 日開催し 69 名の参加がありました。今後全国各地で語りの環が広がっていくことを期待しております。来年 10 月には第 11 回の全国語りの祭りが岡山県倉敷市で開催されます。復興の祭りとして、被災した方々も含め多くの方々と語る喜び聞く楽しみをともに味わいたいものです。そして、平成 23 年 3 月 11 日大きな地震を経験したと、早く昔話として語れる日々が来ることを祈っています。